

京都府小学校教育研究会社会科部

10月27日(木)

研究主題

『伝え合い、学び合う力の創造』

2年次研究協議会

京都府下に和知小の社会科学習を

～地域とつながり、

公開授業で”ひみつ学習”

発信しました

地域から学ぶ社会科学習～

2年 生活科

単元名『もっと行きたいな 町たんけん』
本時の目標：阿上三所神社のおすめを発表したり、聞いたりして、特徴や地域の人々の思いに気づくことができる。



グループごとに、和知地域の神社を訪ね、神社の秘密やおどろいたところ、感心したところをまとめ、他の仲間にも知らせました。大変しっかりした声で発表できました。

4年 社会科

単元名『きょう土をひらく 子来井根(ねごろいね)』
本時の目標：自分たちの地域の発展に関心を持ち、子来井根の開発や先人の働きを理解しよう。



和知地域の宝『子来(ねごろ)井根』の秘密を、石碑から探り出し、地域の講師を招いて、深めました。先人の人々の苦勞を学びとろうと熱心に学習できました。

6年 社会科

単元名『日本の歴史 世界に歩み出した日本』
本時の目標：近代化の波の中で、丹波地域(和知)の蚕糸産業も発展し、当時の地域を支えていたことを知る。



世界に歩み出した大正時代に、郷土和知でも世界につながる養蚕業が盛んに行われた史実を、資料から読み解くことができました。グループの中でも深い議論ができていて、さすが6年生の学習と賞賛の声があがりました。

研究発表・事後研・指導講評

公開授業の後、研究主任が本校の社会科の研究実践について発表しました。続いて、低中高学年に分かれて、公開授業の事後研が行われました。社会科の目標に到達するための、それぞれの学年での学習ステップや、授業の工夫について深い論議がされました。最後に京都府教育庁指導部学校教育課指導主事より、2年間の実践の感謝と到達点、そして今後の研究へのさらなる前進のための示唆を指導講評としていただきました。



開会のあいさつ：野口校長



本校の研究発表：湯浅研究主任



充実の分科会：低・中・高部会



指導講評：細矢指導主事様



社会科の小径：充実の社会科掲示



各学年の社会科掲示

本校の学びを支える3つの柱の紹介

学ぶ力アップの柱

- ①家庭学習のてびき(児童・保護者)
- ②花まるくんウィーク
毎月自分の学習生活についての振り返りを行う。
・自己を見つめる機会
・お家の方からのメッセージによる学習意欲の向上。
- ③朝読書 毎朝 8:30～8:40
火曜日は「黄色いバケツ」と教職員による読み聞かせの実践。
- ④校内掲示の充実
- ⑤学力充実「すくすくタイム」の設定
学年毎に課題設定を行い、基礎学力の充実を図る。

児童活動の柱

- ①下校時スピーチ活動
・2学期からは、金曜日をフレンズ(縦割り班)タイムとし、異年齢集団でスピーチする場を設定
→リーダーの6年生の姿に変化が現れてきている。
- ②全校音楽
・集会時の全校合唱
・全校の一体感や他学年のよさを感じる機会



授業研究の柱

- ①校内授業研究会
各学年一本ずつの授業公開
・一週間前にはブロック内で事前研を行い協働的な授業づくりを行う。
- ②校内職員研修の企画
・総教センター指導主事による理論研
社会科専門委員による実践発表
- ③町内フィールドワーク
・京丹波町を知る機会
瑞穂地区 和知地区 丹波地区
- ④フリートークタイム
・職員室で互いの悩みが打ち明けられる雰囲気づくり